

導きを信じる～迷い旅がくれた未来の描き方

絵画工房ランズエンド代表 画家 古山 拓 氏

本日は、「導きを信じる～迷い旅がくれた未来の描き方」というテーマで、お話しさせていただきます。

私は、画家・イラストレーターとして活動しています。企業広告媒体のイラストのお仕事に関わらせていただきながら、絵本や著作の制作、個展活動なども続けてきました。ですが、最初から自信があったわけではありません。

描く仕事のスタートラインは、絵画ではなくアニメーターでした。『ゲゲゲの鬼太郎』や『アニメ三銃士』携わった主な作品です。絵が上手になりたい、キャラクターを上手く動かしたい、そんな一心で、ただひたすら描いていた3年でした。

でも、「絵を描いて生きていく」という道は、決して簡単なものではありませんでした。

周囲と比べて焦ったこともあります。うまくいかずに立ち止まったこともあります。それでも、振り返ると、不思議と「次の道」が現れる瞬間がありました。その大きな転機のひとつが、1989年、そして1993年のヨーロッパ放浪旅でした。

私は旅が好きです。なぜ好きなのかと考えると、旅は「予定通りにならない」からだと思うのです。

道に迷う。列車を乗り間違える。宿が見つからない。言葉が通じない。でも、その“予定外”の出来事の中で、思いがけない景色や、人との出会いが待っていました。

アイルランドでは、どんなに困ったときも全く見ず知らずの人々の優しさに助けられました。

ブルターニュでは、最悪の状況から導かれた街での最上の出来事の連続で、予定変更に次ぐ予定変更で、忘れられない海辺の風景に出会いました。

コーンウォールや英国の小さな町では、「なぜかわからないけれど、導かれている」と感じる瞬間が何度もありました。

私はそれを、自分の中で「旅の神様の導き」と呼んでいます。神様というと大袈裟かもしれませんが。大いなる摂理、目には見えないけれど、確かにあるもの。それは「人を少しずつ前へ運んでいく流れと調和」のようなものです。

もちろん、人生には苦しい時期もあります。思うように描けない時。仕事がうまくいかない時。人間関係が悩む時。そんな時、人は「失敗した」「間違った道に来てしまった」と思いがちです。でも、私は旅を通して、考え方が変わりました。

迷った道が、結果的に大切な景色へつながっていることがある。だから今は、「迷うこと」そのものを、以前ほど悪いことだとは思わなくなりました。遠回りに見える時間の中にも、意味がある。むしろ、その時間があるからこそ、人は深くなれるのではないかと感じています。

そして今、北海道の個展を開催し終えたばかりです。

実は数年前、自分の曾祖父が北海道開拓へ向かった人間だったという事実を知りました。根室でその生を終えていたのです。

その瞬間、北海道という土地が、自分にとって急に“遠い場所”ではなくなったのです。

まるで、時間を超えて呼ばれているような、巡るべき場所

という不思議な感覚がありました。

だから今回の札幌個展は、自分自身のルーツをたどる旅だったように感じています。そして常に心にあったのは、「導き」という感覚でした。

最後に僕が描く仕事をし続けてきた中で見つけた、三つのことを皆さんにお伝えして終わりにします。私は、絵を描くということは、「形を写すこと」だけではないと思っています。

1. 描くことは、観察することなのです。

観察するとは、目の前にあるものを、ただ見るのではなく、その奥や、裏側にある空気や時間、気配まで感じ取ろうとすることです。

2. 描くことは、光を当てることでもあります。

光を当てるとは、普段見過ごされてしまう風景や、小さな存在の中に、光を当てる、探すことです。石ころや路傍の雑草でさえ究極の美に満ち溢れています。

3. そして描くことは、「視点を変えること」でもあります。

同じ景色でも、見る角度、立つ視点が変わるだけで、世界はまったく違って見える。ちなみにみなさんの持つ視点は唯一無二です。ほかのだれもその視点に入り込むことはできません。

ここまで話すと、「なんだ、日常で気にかけていることと一緒にじゃないか」と思われたと思います。描くスキルとは、技術的なことももちろんありますが、画家は、世界の誰もが実は気づいているその三つを、日々心がけなければ、人の心に届く作品は生み出せない、ということ。

それら3つは、人生にも通じている気がしています。

生きることは旅することです。毎日もまた、小さな旅の連続です。迷いながらも進んでいく。その途中で出会う人や風景が、自分を少しずつ形作っていく。

今日のお話が、皆さん自身の「これから」を見つめる、小さなきっかけになれば嬉しく思います。本日は、ありがとうございました。



■本日のロータリーソング

我等の生業

2025-2026年度
国際ロータリー会長のメッセージ

国際ロータリー会長：フランチェスコ・アレツツォ

よいことの
ために
手を取りあおう